



小学部

平成 21 年 11 月号 NO. 8

日に日に寒さが増してきており、街頭沿いのイチョウの木や 山々の木々が少しずつ赤や黄色の葉に姿を変えていく季節となりましたね。常緑樹や落葉樹のコントラストが本当に美しく「ほっと」気持ちの中にゆとりができ自然の力に元気をもらっています。

季節を感じる心のゆとりはもっていたいものです。そしてちりゆく葉や落ち葉を楽しみながら冬の訪れを待つのもいいですね。

さて、このところの急激な気候の変化と、世界で騒がれているインフルエンザによってつぼみでも体調を崩しているお子様が目立ってきました。体調管理に十分気をつけていくと共に、予防策として部屋の換気・手洗い・消毒を習慣化して本格的なインフルエンザ到来に備えたいと思います。



今月のすがた



支払訓練では 50 円の理解と 10 円が 5 枚でも 50 円・・・という同じをテーマにして取り組んでいます。穴のあいたお金が 50 円というのはバス代でもお馴染みのお金 殆どの子が財布から得意げな表情で取り出してくれるようになりました。ちょっと自信のないのが 10 円玉での 50 円の作り方 50 円そのものは理解できても姿形がかわると不安な様子。ここをしっかりと理解できるように実践と学習とを重ねたいと思います。**制作活動**ではペットボトルを利用してペットボトルメリーゴーランド

を作りました。久しぶりの制作。子ども達は持ち物の多い日は何故か何時もに増して元気に来所してくれます。そんな期待に応えようとスタッフも念入りなミーティングを重ね気合を入れて向かえ入れています(笑)。



今回の制作では 線に沿ってはさみを入れる 2 箇所穴に割り箸を通す空間認知 物を作り上げ完成させる達成感を中心に取り組みました。はさみでは技術的な事も大切ですが視線が先をいくのかそこに手を連動させて動かしているのかを見えています。割り箸さしも同様 1 箇所さした後の先を見通せる力を経験してもらいました。



悪戦苦闘しながらも物を作り上げる楽しさ・達成感はどの子も味わってくれました。中には自分の作品に納得できず泣きながらやり直し納得のいくものをつくり、ある子は何時もに増して一つひとつ丁寧に慎重にとりくみ集中力を継続させ またある子は紙をきる感覚に魅了されて進まなかったり・・・と様々な様子が見られました。

調理実習・五感刺激ではたこ焼き作りに挑戦！ 食に対してはみんなが興味津々 いい匂いがたち込める中取り組みました。一人 20 個のたこ焼きを作る事で楽しみながら手首をコロコロと返し綺麗な の形を作っていました。楽しみながら出来る療育は子ども達に好評です。そして、お土産として持ち帰る楽しさもあるのでしょう

か？ 各家庭において色々なエピソードを聞いております。家庭の中でつぼみの活動の話題が出ているのはとっても嬉しいものです。

そして、その他にもA D L訓練・自活訓練とありましたが、ここ最近豊田合成での実習生を真近で見ることが多くなり、「社会に出て働く」ために必要な力を見て感じる事が出来ました。小学部の療育の内容を再度検討しながら無理なく、楽しみながらできる療育教材を考えていきます。

ありがとう&さようなら

～夏休みが始まったところから職員として働いていた大石結実さんが退職されることになりました～

つぼみ職員になって最初の頃は子ども達が自分とはかけ離れた遠い存在を前にしているようでした。何か緊張して取り扱わなければならない。可愛いけれどそんな風に思っていました。しかし、一ヶ月くらいつぼみで働いていくうちに先生方が我が子を育てるように真剣に本音で子ども達と接している姿、子ども達の気持ちになって理解し、寄り添いながらも引き上げていこうとする先生に子ども達は少しずつだけど応えていっているのを現場を見て、それまでの自分の意識が間違っている事に気がつき、以前よりもずっと子ども達との距離が近くなり、子ども達の事が本当に愛おしいなと思えるようになりました。それからいつの間にか気がつく、家に帰っても頭の中はつぼみの事ばかりで子ども達同様、つぼみが私の大好きな居場所になっていました。

時には塩を揉み込まれ、重い石も乗っかる時もありながら、でも決して素材の味が消える事のない愛情いっぱい味の『つぼみ漬け』のような個性溢れる先生や子ども達の中で、つぼみの一員として一緒に味あわせて頂いて、本当に感謝です。また、お母様方には子育ても未経験な私で、色々失礼や失敗もあったかと思われませんが、その都度暖かい目で見守ってくださりありがとうございます。つぼみの中で子ども達との関わりを通して本当に大切な事を学び、経験しました。感情がいくらあっても足りないようなつぼみ生活、とても短い五ヶ月間でしたがつぼみに出会えて本当に良かったし、つぼみで働いたことを誇りに思います。これからまた新しい環境へと移りますがつぼみでの事は決して忘れません。本当に本当にありがとうございました。

大石 結実

Kのひとこと

さよなら大石先生。

Kの一言では、職員紹介をしてきました。今日は、悲しい報告を兼ねて紹介します。

若いのにどこか年寄り臭い大石先生。学生時代は東京で暮らしていたはずなのに、田舎臭い大石先生。入社面接では大きな目をキョロキョロさせて、意気込みを感じさせた大石先生。出掛けると子ども以上に自分が楽しんでしまう大石先生。通勤は自転車で30分なのにバスで1時間半。選んだのはバス通勤の大石先生。就職二日目にして、メガネが破壊された大石先生。子どもの人数点呼の時に自分も数に入れてしまう大石先生。自分の歓迎会に欠席してしまった大石先生。家庭の都合で、12月にアメリカに留学することになったのに11月30日まで、働きたいと最後まで気を抜かない大石先生。

今までのつぼみの職員にはない、特別な暖かさのある大石先生が、11月30日でお別れとなります。Kは悲しく、寂しく思う。いろんな人と出会い。そして、別れを経験してきたけど、Kの最近の夢は、大石先生の結婚式でのスピーチだった。かなりショックが大きい。でも、彼女と過ごせた子どもたちも、短い時間だったけど幸せだったと確信しています。「出会いと別れ」を多く経験してきましたが、悲しい、寂しいと言ってもらえる大石先生も幸せだと思います。

大石先生、門出です。笑顔で出発してください。